

平成 26 年度 第 2 回 ほっと越谷ブックサロン「家族いろいろ 本もいろいろ」を開催しました♪♪

開催日 1月17日(土) 13:30~15:30
 参加者 13人(女性12人、男性1人)

市民企画委員の6人が、企画、チラシ作成から携わり、当日の司会、受付などを担当し、ほっと越谷ブックサロンを開催しました。

今回のブックサロンは、「家族に関する本」を読み、参加者がひとり3~5分で本を紹介、その後、意見交換をしました。本をとおして、家族に関する様々な思いを共有しました。



ブックサロン時に紹介された本 右の紹介本の他に『シズコさん』『きみは赤ちゃん』『ガラスの家族』『家族を生きる』『自殺で家族を亡くして』『家族脳』『母が重くてたまらない』『家族という名の孤独』など

「家族いろいろ 本もいろいろ」ブックフェア

市民企画委員は、家族に関係した本を展示して、ブックサロンへの参加を促しました。新春の“おめでタワー”、図書リスト・本の紹介も作成しました。



ほっと越谷 所蔵本

家族いろいろ 本もいろいろ 2015.1/4~1/31

「ほっと越谷」市民企画委員が、本の紹介文を書いています。

<p>〈現代家族〉の医生 幻想系家族論の死 著者 岩村暢子 発行 勁草書房 日本の親は、代々きちんとした食事をさせてきたか？あなたは誰に料理を習ったか？「昔」は「立派な家族」が子どもを養っていたのか？40人の詳細な面接調査から浮かび上がった食から見た日本人の実像は？(清) 分類:オレンジ</p>	<p>いい妻、リセット宣言 著者 百世瑛衣乎 発行 共同通信社 夫が定年で仕事から解放された時、妻は一緒に喜んであげられる？ 「主人在宅ストレス症候群」にならないためのヒントが提案されている。(清) 分類:B330イ</p>
<p>家族難民 生涯未婚率25%社会の衝撃 著者 山田昌弘 発行 朝日新聞出版 「25年後20万人が孤立死？」と聞けば誰もが心中穏やかではあるまい。シングル化が進む日本。そこにある経済格差と家族格差。『パラサイト・シングル』から7年。家族難民にならないためにできることは何か。必読！(葉) 分類:A340カ</p>	<p>家族収容所「妻」という謎 著者 榎田さよ子 発行 講談社 「家族」のなかの「妻」に焦点を当て、「共存」という言葉をキーワードにして臨床心理士・カウンセラーである立場から、問題点を提起して示唆する。(宮) 分類:オレンジ</p>
<p>オトナ婚です、わたしたち 十人十色のつがい方 著者 大塚瑠子 発行 太郎次郎社エディタス 常職や形にとらわれず自由なつがい方を実現している女性たちを紹介している。結婚とは何かを考えさせられる。(芳) 分類:B130オ</p>	<p>日本型近代家族 どこから来てどこへ行くのか 著者 千田有紀 発行 勁草書房 「家」から「家族」へと変動してきたが、夫が稼ぎ手であり妻が家事に責任を持つという性別役割分業が成立しているなか「日本型近代家族」はどこに行こうとしているのか、その問題点を考える。(宮) 分類:B320ニ</p>
<p>ぶどうの木 10人の“わが子”とすごした、夏祭18年の記録 著者 坂本洋子 発行 幻冬舎 里親制度について知っていますか。里親の苦労、愛情。里子の心の扉。彼ら家族を知り、せめて、温かく見守れるようになりたいもの。世の中、偏見のなんと多いことか。(祐) 分類:B341フ</p>	<p>同性婚、あなたは賛成？ 反対？フランスのメディアから考える 著者 浅野素女 発行 ハド・ウィメンズ・オフィス フランスでは2013年に同性婚が認められるようになった。同性同士のカップルが子どもを持つことについて、じっくり考えることができる。(公) 分類:G110ド</p>

※「ほっと越谷」では毎週木曜日に、所蔵本の貸出しをしています。

【参加者の感想】
 皆さんが本音で語ってくれたので、満足です／自分で選べないいろいろな本を紹介していただき、参考になりました／家族という深いテーマを取り上げ、全員が親しく話せてよかったです／いろいろな話がでて、おもしろかったです